



古石

後援会だより

URL: http://古石.com/

発行日 令和2年6月 古石ひでさと後援会事務所 岩見沢市橋向1丁目1番11号 TEL 26-2226

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

松下幸之助 パナソニック会長



松下幸之助と池田先生が和やかに会席（1983年11月、旧・聖教新聞本社で）。氏と先生の語らいは30回以上に及ぶ。氏は折々に語っていた。「池田先生にお会いできたことが、自分の人生で最高の出来事であった。最高の喜びであった」

「この目で見届けたい。池田先生の教えを中心に世界が回る21世紀を」

その後も、政経塾の理念をはじめ、二人はたびたび意見を交換。75年には住持権をまとめた『人生問答』が刊行され、ベストセラーとなった。

池田先生は松下氏が語らうを重ねた70年代、創生大学、関西創生学院が開学している。いずれも氏は足を運んで、創生教育の未来を期待を託した。

「先生は松下氏の健康を心配したが、その決心は固かった。健康を示すと、『先生には、ぜひ私の健康に』と囁きかける一瞬もあった。

感想をお寄せください news-kikaku@seikyo-np.jp

扉をひらく 池田先生の対話録Ⅲ 第11回

「力目ほど前、松下氏は学会の東京文化財団に参画して参加していた。氏には、甲子園球場で開かれた運動会を開いた経緯がある。この日、千原万作の文字やダンスにも驚嘆したが、とりわけ心算したのは、池田先生の氣遣いだったという。大行事のなか、担当を通して何度も「都合はありますか」と確認があった。

「松下先生に、どうしてもお会いしたい。71年2月のある日、松下氏から入会して連絡があった。当時、氏は76歳。病院で療養中にもかかわらず、『いつでもどこでもかかろうよ。』というので、こちらも「いいえ、この機会にぜひお会いしたい」との意向が返った。春、月、静岡で対談が実現。氏は、志を日本社会への奉還を語った。「1日では、日本はなごなりません。経営の神様」と仰られる氏は、



「松下先生は何かお作りに？」との質問に、「人を創っています。あわせて製品も作っています」と松下氏が答えたのは有名な逸話である。

PHP研究所、同著『私の夢・日本の夢—21世紀の日本—』同、木野親之著『創立者池田大作先生と松下幸之助創業者』（『新創生論』第42巻第1号所収）、水元元著『創立者—人を育て、人を創るリーダーの語らい』（『創生教育研究』第4号所収）ほか。

米、新規感染者最多 東部3州 来訪者隔離義務化 「ワシントン、ニューヨーク共同」米紙ワシントン・ポスト電

政府、来月から議論 -極集中是正 問われる本気度 コロナで弊害露呈 衆院選意識の声も